

## 博士課程進学（および他大学の修士課程からの入学）に関して

\*以下は、あくまでも吾郷の個人的な考えです

最近、理系の学生が就職する製造業を中心とする国内企業において、50代、あるいは早ければ40代での早期退職制度などが行われるようになってきました。もちろんその部門の売り上げが芳しくなく、部門が廃止される、あるいは他企業へ譲渡されるという状況もあると思いますが、画一的に修士課程を修了後に一斉に入社して、企業の文化に染まり、社内教育を受けて成長していく、という従来のモデルが徐々に通用しなくなっているように強く感じられます。プロとしてではなく、年齢で区切られた一つの集団（言い方は良くないですが）として扱われているように思えます。そして、他社に転職する際も、その企業で培った経験だけが頼りで、一般に通用するライセンスのようなものはありません。

一方、他国を見渡せば、修士号で終わるケースは少なく、博士号をほとんどの国で取りまし、そのような過程を経て就職、あるいは大学でポスドクを経て研究職を得ていきます。そして、国内製造業も他国との取引や販売が重要なウェイトを占めるようになってきており、相手先は博士号をもっているというケースも出てくると思います。

上記の点から、**研究者、エンジニアとしてのライセンス（証明書）を得るため、あるいはしっかりとした研究活動を行う場として博士課程を経ることは、今後ますます重要になってくるのではないかと考えています。論理的な思考、共同研究を通じた他者とのコラボレーションの仕方、受け手に伝わるプレゼンテーション・文章力、など様々なトレーニングを博士課程の間に行います。**さらには、博士課程の間に、**少なくとも私たちの研究室では英語の力（話す、書く、読む力）も養われます。**博士課程で行った研究テーマを企業に入ってやることは多くはないとは思いますが、論理的な思考やクリエイティビティに関するトレーニングは普遍的に役立つものと信じています。

よく、「**博士課程に進学すると就職先がないのでは？**」という質問を学生さんから受けます。それは違うといえます。当研究室では、日本人、留学生ともに博士号を取った後、企業に就職するケースも多いですが、**博士3年の学生さんの方が、修士2年の学生さんよりも短期間で内々手ももらってきます**（実際には博士課程の場合には博士2年の終わり頃に決まっています）。それだけ長い期間、教育を受けているので当然だと個人的には考えています。

私が所属する総合理工学府は、独立大学院であるため、基本的に修士課程から入学し、半年間は講義でスクーリング、半年間は就職活動に費やす必要があり、研究者・エンジニアとしてのトレーニングに十分な時間があるとは言い難いのが現実です。もちろん、限られた時間にできるだけ成長されるように耐えず努力しています。

博士課程に進学すると、20代後半まで遊ぶことができないという考えもありますし、よく分かります。ただ、よく学び、よく遊ぶことは博士課程でも可能だと思いますし、人生80年と長くなってきたので、20代でしっかりとした土台を築いておくことも、一面としては良いことではないかと思います。

**ただ、経済的な問題は大きいと思います。**米国、韓国、中国など多くの国で、博士課程の学生には経済的な支援が研究室から行われています（競争的な研究費の中に含まれているそうです。良い悪いはともかくとして、これらの国では外部研究費を獲得できない研究室は大学院生を受け入れられないと聞きます）。他方、日本では研究費は基本的に研究を進めるためのものです。私自身は、日本育英会の奨学金を大学から博士課程修了時にお世話になりました。なお、日本学術振興会の[特別研究員](#)（学振と呼ばれます）は十分な給料がもらえるシステムで、採択率は10%と高くはないですが、申請して採択されれば、経済的な問題は解決されます。また、**総理工でもリサーチアシスタント（RA）としてサポートがあります。****私たちの研究室でも、博士課程の学生さんに対してはできるだけ金銭的なサポートをするようにしています。**受け入れる研究費（競争的資金と呼ばれます）に左右されるので、確約できないのが難しいところですが・・・我々が学生の頃よりは状況は良くなっていると思います。

もちろん、私たちの研究室に限らず、大学の学術研究を高いレベルで展開するためにも、博士課程の学生さんは非常に重要な戦力となりますので、メディアなどでも日本人博士学生の数の減少がよく議論されています。**博士号をとることは最初の一步に過ぎませんが、それに至るまでの経験や蓄積は、それから先の研究者・エンジニアとしての大きな糧になるものと考えています。**

最後は自分の人生に対する考え方にたどりつくのかもしれないね。

九州大学グローバルイノベーションセンター・総合理工学府  
吾郷 浩樹